

日本経済論 B 答案用紙

2004年2月3日実施

学科・学年		学籍番号	
氏名			

問題 1 (各 5 点 × 3 = 15 点)

(1) 経常収支

経常収支は、日本と海外との実物面での経済活動の取引を記録したものである。同収支は、貿易収支、サービス収支、所得収支、経常移転収支などに分かれている。貿易収支はモノの取引の収支を表したもので、輸出から輸入を引いて計算される。サービス収支は旅行収支など、サービス貿易の取引の収支を表したものである。日本の貿易収支は黒字、サービス収支は赤字で、経常収支は黒字が続いている。

(2) 道路公団

効率性を考えずに不要不急のプロジェクトにお金をつぎ込んで、大きな借金を抱えたため。

(3) 1 ドル = 200 円から 1 ドル = 100 円になった場合、円高というのはなぜか？

1 ドルあたりの価値が 200 円から 100 円になったということは、ドルの価値が下がったことを意味する。為替レートは、2 つの通貨の比率であり、ドルの価値が下がったということは、円の価値が上がったことを意味するため、円高という。

「1 ドル当たり」で示しているため、金額が下がるほど高くなる。

問題 2 ジニ係数（5点）

教科書 261 ページ参照。

問題 3 輸出入の構造（10点）

輸出は、品目別では 1960 年ごろまでは繊維製品が主な輸出品だった。高度成長期には鉄鋼、テレビ、ラジオなどが増え、石油危機以降は自動車をはじめとする加工組立型商品が増えた。近年は電子品やコンピューターなどの輸出が増えている。地域別には戦後直後はアメリカのシェアが多かったが、最近アジアのシェアが高まっている。

輸入は、80 年代半ばまで、食料品、鉄鋼、羊毛などの原材料や石油の割合が多かった。その後工業製品のシェアが拡大した。地域別には、米国、中東のシェアが低下し、アジアからのシェアが高まっている。

問題4 2点×20=40点

1	2
CEO	1人
3	4
磁気カード	知的財産権
5	6
メインバンク	40歳
7	8
日本郵船、商船三井、川崎汽船のうち1つ	マザーズ、ジャスダック、ヘラクレスのうち1つ
9	10
国内	(トランジスタ)ラジオ
11	12
鳥インフルエンザ	民主党
13	14
赤字	確定申告
15	16
三位一体改革	50%
17	18
M	購買力平価
19	20
合計特殊出生率	デフレ

問題5 年金 2点×10

1	2
13300 円	66417 円
3	4
18 万円	65 歳
5	6
共済年金	ゼロ
7	8
50%	企業年金
9	10
3158 万人	40 兆 7840 億円

問題6 感想 (内容にかかわらず 10点、無記入は0点)

良かった点

改善を要する点
